

生成 AI に関する補足ガイダンス

2025/7/1

法政大学キャリアデザイン学部教務委員会

1. 不正行為に関する処分基準の確認

法政大学では、以下のような不正行為に関する処分基準が定められています。

試験等の不正行為の処分基準 [共通]

https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/04_fusei.pdf

定期試験(それに相当する授業内試験を含む)における不正行為

- ① 計画性の弱い、または偶発的な不正行為
- ② 計画性が強い、または意図的な不正行為
- ③ 受験依頼(いわゆる替え玉受験)

※ 教員による使用許可がない限り、答案に関連する成果物の全部または一部において、自動生成された文章・画像・プログラム等を利用してこれを作成した者も、上記に準じて処分の対象となりうる。

論文(卒業論文を含む)、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為

- ① 剽窃(ひょうせつ)行為
- ② 悪質な剽窃(ひょうせつ)行為
- ③ 代筆依頼
- ④ その他不正行為

※ 教員による使用許可がない限り、課題に関連する成果物の全部または一部において、自動生成された文章・画像・プログラム等を利用してこれを作成した者も、上記に準じて処分の対象となりうる。

処分の例

- 厳重注意または譴責
- 停学 1 カ月未満 + 当該科目 E 評価
- 停学 3 カ月以上 6 カ月未満または無期停学
- 当該科目は無効(E評価)
- 当該学期全履修科目の単位を無効(E評価)

2. 生成 AI 活用の基本的考え方

上記のように、試験やレポート等で自動生成された文章をそのまま使うことは処分対象となり得ますが、生成 AI を日常生活や学びの中で賢明に活用することも重要です。

生成 AI ツールに対する基本的考え方

(2023.06.23)

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

https://www.hoseikyoku.jp/lf/project/view.php?c=topics_view&pk=1687401621

(前略) 建学以来「自由と進歩」の精神を尊重してきました。

この大学の理念に沿えば、学びの深化を促す方法や技術については、基本的な態度として積極的に受け止めるべきでしょう。

使用倫理への配慮、セキュリティや法的リスクといった危険性を十分に認識した上で、日常生活や学びの中で賢明に活用していくことが重要であると考えます。

3. 適切な利用のための注意事項

3-1. 使用倫理への配慮

① AI の偏見(バイアス)への注意

AI は人間社会の膨大なデータを学習しており、その中には、差別や偏見(バイアス)も含まれています。ジェンダー、人種、国籍、職業などに対する偏った表現が生成されることがあります。

【対応策】

- AI の出力内容が差別的表現を含んでいないかを常にチェックする
- 差別的な指示を出すこと、またそれを意図することは厳かに慎む

② フェイクニュース・偽情報への注意

AI は、偽記事・偽画像・偽動画(ディープフェイク)を生成可能です。これらの作成や拡散は名誉毀損や社会的混乱を引き起こすことがあります。

【対応策】

- 情報の受け手としてのファクトチェックを怠らない
- 作り手としての倫理観を持つ

③エコーチェンバーへの注意

AIは、過去の入力や好みに合わせた情報を提示する傾向があります。自分に都合のよい情報だけが提示される状態(エコーチェンバー)では、視野が狭まり、論理的な思考力が損なわれる可能性があります。

【対応策】

- 「AIは私に寄せている」と意識する
- 異なる視点も求める:「この意見に反対する人は何と言うか」と問いかける
- 複数のAIを比較し、バランスの取れた視点を持つ

3-2.セキュリティ

①情報入力時の注意

ChatGPTなどの一般的な生成AIに入力した内容は、サービス提供者のサーバーに送信され、再学習に使われる可能性があります。これは、個人的な相談や機密情報がAIの「知識」の一部になり、他者に出力されるリスクがあることを意味します。

【入力してはならない情報】

- **個人情報:** 学生証番号、住所、電話番号、メールアドレスなど
※氏名は公表済みの研究実績等では例外があります(教員が執筆した論文情報など)
- **学内の機密情報:** ゼミや研究室の未公開資料、研究データなど
- **外部の機密情報:** インターンシップやアルバイト先で知った企業情報など

すなわち、SNS投稿と同じレベルの注意が必要です。

②出力内容の取り扱い

生成 AI の出力内容についても適切な管理が必要です。重要な情報を含む出力結果を不用意に他者と共有したり、公開の場に掲載したりすることは避けましょう。また、生成された内容をそのまま学外のシステムや第三者に転送する際は、内容を十分に確認してください。

3-3.法的リスク

①知的財産権への注意

生成 AI の出力結果には著作物の影響が含まれる可能性があり、著作権やパブリシティ権の侵害にあたる場合があります。「AI が作ったから自由に使える」という考え方は誤りです。

【対応策】

- 生成 AI の出力は「完成品」ではなく「素材」として捉える
- 自分の言葉や視点で加筆・修正・再構成を行う

②ハルシネーション(偽情報生成)への注意

AI が提示する論文は実在しない可能性があります(ハルシネーション)。それを引用すると捏造と見なされ、不正行為になる可能性があります。

【対応策】

- AI が提示する論文を各種サイトで検索し、自分で読む
 - 孫引き(※出典を自分で読まず、他人の引用だけを見て使うこと)しない
-

4.まとめ:人間としての尊厳を忘れずに

- AI は、思考を深めるためのパートナーであり、単なる効率化の道具ではありません
- 技術を正しく理解するとともに、倫理・責任・学問への誠実さを大切にしましょう
- 自分の問いと探究心を持ち続け、その成果に責任を持つことが重要です
- AI を過度に恐れず、しかし慎重に向き合しましょう